平成31年度　児童・生徒の学力向上を図るための調査結果　課題分析表　（中学校）

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

南葛西第二中学校

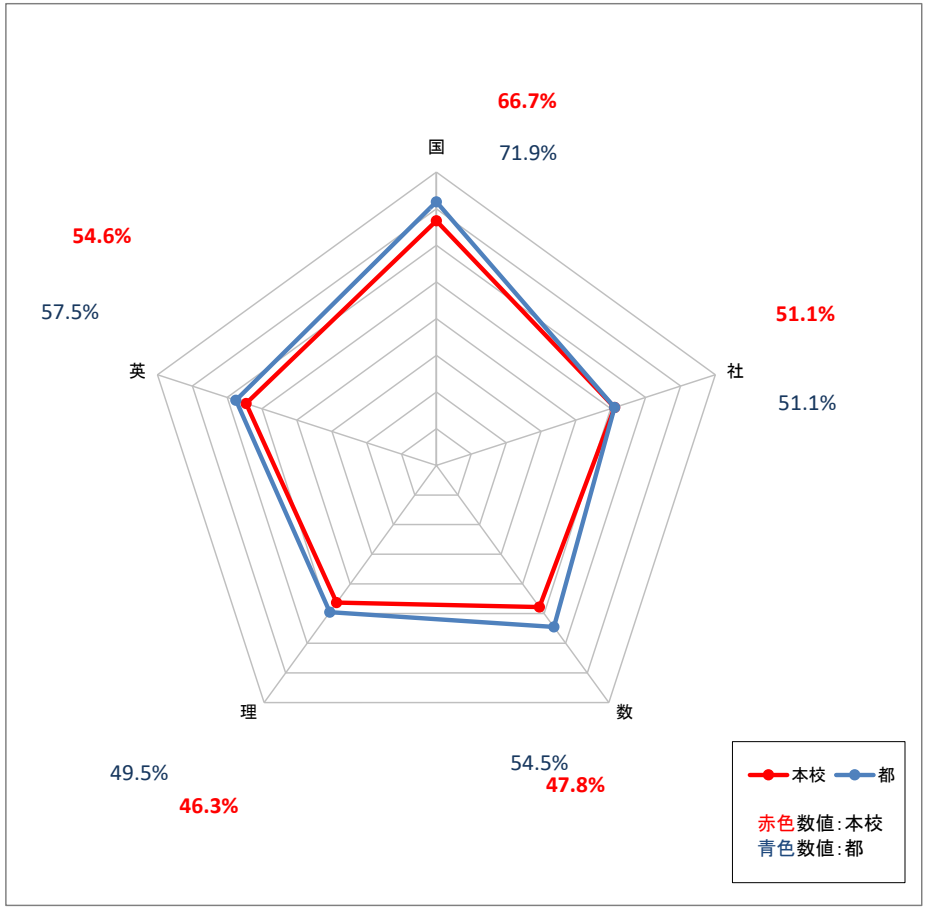
国語	教科の観点				
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科の合計
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	**71.9%**
本校	67.8%	57.5%	78.3%	59.8%	**66.7%**
都との差	−7.0	−1.4	−1.0	−9.3	−5.2

社会	教科の観点			
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	教科の合計
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	**51.1%**
本校	47.7%	62.1%	42.4%	**51.1%**
都との差	−1.0	0.2	1.3	0.0

数学	教科の観点			
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	教科の合計
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	**54.5%**
本校	27.3%	54.2%	56.4%	**47.8%**
都との差	−4.1	−8.2	−6.9	−6.7

理科	教科の観点			
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科の合計
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	**49.5%**
本校	39.7%	57.0%	44.8%	**46.3%**
都との差	−4.2	−3.2	−2.6	−3.2

英語	教科の観点			
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	教科の合計
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	**57.5%**
本校	43.8%	60.8%	53.1%	**54.6%**
都との差	−2.3	−1.6	−6.1	−2.9



《都との比較にみる本校の状況》

【国語】「言語についての知識・理解・技能」についての問題のうち、特に文法、漢字の書き取りの正答率が低かった。また、与えられた資料からの情報を取捨選択する問題の正答率が低かった。
【社会】歴史的分野では各時代の知識・理解、地理的分野では各国の知識・理解についてそれぞれ定着が見られるが、時代のつながりや各国のさまざまな特徴の関連付けについては正答率が低い。
【数学】各観点とも都の平均を下回っている。与えられた事象を文字を使った式で表す問題、円錐の体積を求める問題など、「数学的な技能」の問題の正答率が低い。
【理科】「濃度」の計算の仕方について半数の生徒が理解をしているという結果が見られた。しかし、「質量」「体積」「密度」の関係について、形式的な計算はできても意味理解について問う問題の正答率は低い。
【英語】「外国語理解の能力」は都の平均値に達していないものの他の観点よりは差が小さい。一方、「言語や文化についての知識・理解」に含まれる文法力が低い結果となっている。

《授業改善のポイント》

【国語】漢字、文法については、毎日宿題を提示し、小テストを行って定着を図っている。また授業では、新聞のコラムを読ませ、関連するテーマの200字作文を定期テストで出題し、学習に取り組ませる工夫をしている。
【社会】歴史的分野では、時代を区切りながら学習を進めていくことになるが、時代ごとの関連や時代が変わった要因にも触れながら授業を行う。地理的分野でも、国同士の類似点、相違点に触れながら、その国の特徴をより深く理解できるようにしていく。
【数学】系統性のある数量の領域では、引き続き計算練習に繰り返して取り組ませる。空間図形の体積、作図、座標軸上に点をとること、比例のグラフなど、正答率の低い学習内容についても1度学習した内容を繰り返し復習して定着を図ることが大切である。
【理科】「濃度」や「密度」の形式的な計算の練習は、継続して取り組ませるとともに、数値処理をした割合である「濃度」や「密度」について、実験や観察を通して実感させる授業を積極的に行っていく。
【英語】生徒がイメージしやすく、「英語で表現してみたい」と思わせる場面を設定し、その中で会話やプレゼンテーションを行わせて、さらに力を伸ばしていく。また、反復練習によって文法力の定着を図る。

《家庭・地域への働きかけ》

【基本的な生活習慣】
毎年実施されている全国学力・学習状況調査の報告では、毎朝、朝ごはんを食べる子どもほど学力が高い傾向にあることが一貫して示されており、本調査と同様の結果である。本調査の生徒質問紙調査の「学校に行く前に朝食を食べますか」という質問で本校は、「必ず食べる」71.4%（都 80.3%）、「たいてい食べる」16.5%（都 12.9%）である。1年次で「生活リズム向上講座」を開催し、生徒に朝ごはんの重要性を説くだけでなく、各種通信を通じて、家庭、地域とも連携して、基本的な生活習慣の確立を目指していく。

【家庭での学習習慣】
本調査「学校以外で、毎日およそどのくらい学習をしますか。（塾や習い事はふくめません）」という質問に、「学習をすることはない」20.9%（都 15.4%）、「毎日30分未満」22.0%（都 26.3%）である。学校として、日々の授業や長期休業期間で課す宿題によって「学習をしなければならない環境」を作りつつ、定例の数学補習教室や長期休業中の補習によって、家庭に帰って自ら課題を見つけ主体的に取り組む姿勢を育むことができるように、様々な場面を通じて家庭との連携を図っていく。